

2018年 2 月 1 日(木)

午後 1 時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 お待たせをしました。

定刻の時間となりましたので、ただいまより平成30年 2 月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いします。事業発表の質疑応答終了後に、次第の 3 番目、フリーの質疑応答へと進行していきたいと思えます。

なお、ご質問の際は、ご自席のマイクのスイッチを入れていただき、ご質問の後は切っさせていただきますようお願いします。

終了は14時30分を予定しております。ご協力お願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いします。

【市長】 皆さん、こんにちは。どうぞよろしくお願いします。

1 月が終わりまして 2 月になりましたけれども、思ったよりたくさん雪が降りましたので、市民の皆さん、またいろんな方にご迷惑をおかけしておりますが、精いっぱい取り組んでおりますので、どうぞよろしくお願いします。

また、今月は東京出張、またポーランド・リトアニアの出張等、少しない時期がありますので、日程につきましてもいろいろ変更したりしてご協力いただいておりますけれども、よろしくお願いします。

【秘書広報課長補佐】 次に、事業発表をお願いします。

【市長】 発表項目については 3 項目であります。1 つ目はリトアニア・ポーランドの使節団の派遣について、2 つ目が北陸新幹線敦賀開業に向けた「地域資源を活用したまちづくりシンポジウム」の開催について、3 つ目が市民の健康づくり推進事業「春先のアーケードウォークを楽しもう！」の開催についてであります。

では、1 つ目のリトアニア・ポーランド使節団の派遣についてでございますが、今月 13 日から 18 日にかけて、リトアニアとポーランドに市議会議長とともに敦賀市の使節団として訪問いたします。リトアニアは、独立回復 100 周年の記念式典に出席するということでありまして、第二次世界大戦当時の命のビザが発給された旧日本領事館等を訪問。また、ポーランドでは、ポーランド独立回復 100 周年がことしでありまして、日本との国交樹立 100 周年が来年であります。ポーランド孤児の上陸 100 周年が 2020 年とさまざまな行事が続きますので、そういう意味で関係者との面談や関連施設の訪問をしたいというふうに思っております。

それから、2 つ目の北陸新幹線敦賀開業に向けた受け皿づくりや、これからの敦賀市のまちづくりを考えていくために、北陸新幹線敦賀開業に向けた「地域資源を活用したまちづくりシンポジウム ～市民みんなが仕掛け人～」というのを 2 月 24 日の土曜日にきらめきみなと館の小ホールにて開催いたします。このシンポジウムでは、敦賀市の地域資源を活用したまちの活性化を目的に 3 回にわたり開催してきました市民参加のワークショップ参加者や、まちづくりの学習を行っている高校生の方にパネルディスカッションなどを行

っていただきまして、今後の北陸新幹線敦賀開業に向けた受け皿づくりなどについて意見交換を行ってまいります。多くの方の参加をお待ちしております。

3番目につきましては、市民の健康づくり推進事業としまして「春先のアーケードウォークを楽しもう！」の開催についてであります。今回で3回目になりますが、市民の健康づくりの推進事業であります「イキイキ健活！プラス1」の運動の一環として、天候に左右されないアーケードを利用したウォーキングの魅力を体験し、今後の健康づくりにつなげていただくことを目的に、3月4日曜日、「春先のアーケードウォークを楽しもう！」をテーマに開催いたします。これも皆さんのご参加をお待ちしていますので、よろしくお願いいたします。

以上、3件であります。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目について質問を受けたいと思います。

最初に、幹事社さん、お願いします。

【記者】 リトアニア・ポーランドの使節団派遣について、改めてその具体的な訪問の狙いとどんな成果を求めていくかということをお聞きしたいと思います。

【市長】 リトアニア・ポーランドの、まずリトアニアのほうですけれども、100周年ということで記念事業がありますということでご案内いただきました。カウナスの杉原ウィークなどは9月5日前後ということですので、ちょうど敦賀市の祭りと重なりますので、そこについてはなかなか参加できないという事情がありますので、これをタイミングを逃すとなかなか行けないだろうということで、親交を深める上でも非常に大事なものだと思って参加させていただくということが一つあります。また、杉原千畝記念館がありますので、そこにも行かせていただいて、もし敦賀市で何かお手伝いができることがあればということで、行ってお話をしてみようという気持ちで行きます。

ポーランドにつきましては、先ほど言いましたように、100周年と国交樹立と、それからポーランド孤児ということが続いて行われますので、その中で少し親交を深めていくべきだというふうに考えております。また、100周年のときには、2020年でございますのでオリンピックの年でもありますし、そういうことを契機に何かできるといいなということで行かせていただきます。

特にこれを持って帰れるから行くというわけではありませんが、何かにつなげていけたらと思っています。

【記者】 あと、新幹線の敦賀開業に向けたシンポジウムなんですけれども、このシンポジウムをして市民が参加して、その後、このシンポジウムを踏まえてどういう展開をしていくのか。機運の醸成で終わるのか、それとも今後になにかつなげていくのかという。

【市長】 そうですね。部長から補足があると思いますが、ワークショップでは素材を提案とか、もてなし方のいろんなアイデアとか、そういうことをいただきましたので、それを組み立てられるようなパネルディスカッションとかそういう話になればいいなと思いますが、その中で実現できるものがあれば採用していきたいですし、どのような考え方を持っていच्छるかということのも皆さんの話を聞ければいいなと思っています。当然機運の盛り上げというのが一番狙いのところでもあります。

あとは部長のほうからお答えします。

【産業経済部長】　ほとんど市長がお答えしていただいたんですけれども、今回、ワークショップを3回開催しておりまして、参加者は一応固定したメンバーでいろいろ議論をしていただいたと。そういった中で、敦賀市にある観光素材とか地域資源、そういったものを、今おっしゃったように、もうちょっと外向けにこういった形で発信できるかなとか、今言う敦賀でこういったものができないとか、そういった議論を今回、ワークショップとか、あと基調講演もごさいますので、そういったところでそういった先生方からヒントを得たいというものでございます。最終的にはそういったもので敦賀市が活性化できればという目的で、今回開催する予定になっております。

以上です。

【記者】　よろしくお願いします。リトアニアとポーランドについてなんですけれども、いろんな方と交流されたりするんですけれども、ちょっと中身に直接関係あるかはわからないんですけれども、市長が一番楽しみにしているというか、この訪問の中で一番楽しみにしているところはどこでしょう。

【市長】　楽しみにしているところですか。杉原ハウスに行くのを一番楽しみにしています。外装についてはいろいろ日本の方が応援して、左官さんでしたかね、大工さんが応援したりしていますので、実際、今どういうふうな形になっているのかなと。1階と2階とありますので、1階、2階の使い方でもた何か私どもがお手伝いできることがないのかなというのを見ていきたいと思っています。

【記者】　あと、今回の訪問と交流を通してですが、きのうでしたか、ムゼウムの件もいろいろ進み始めていますし、この交流をどういうふうに、敦賀とリトアニア・ポーランドの関係をどういうふうに今後敦賀の発展とか展示とかそういうのに生かしていきたいかというような思いとかがあれば教えていただきたいんですけれども。

【市長】　そうですね。やはりリトアニアについてはカウナスの市長さんともお会いできますので、そのときにこちらの敦賀がどういうところかということもやっぱりお話ししたほうがいいと思っています。この間、イスラエルの法務大臣も見えましたけれども、余り敦賀のことは知られていないんですよね。ですから、向こうに行ってどのくらい敦賀のことをご存じなのかということも確認していきたいというふうに思っています。

ポーランドにつきましては、やはりもう100年近く続いてきていますので、その中で向こうの事情とかいうのもあると思いますから、その辺の事情とか、ポーランド孤児が戻っていった住んだまちなんかもあるんですけれども、そこまで行けたらいいんですが、そこまで行くにはちょっと日程が足らないのでそういうことを知っている方にお会いできたらいいなと思っていますが、そういう議員団の方とか大使とかお話しできますので、現地でいろんなことを聞いてきたいと思っています。

【秘書広報課長補佐】　それでは、各社伺います。発表項目につきまして質問ありましたら挙手をお願いします。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へに行きたいと思います。こちらも幹事社さん、お願いします。

【記者】　ふげんの使用済燃料の搬出の計画が年度末までとなっていて変更が必要になっているんですけれども、機構のほうは、ほぼほぼ技術的検討は固まっていて地元と今交渉中だみたいな発言をされているんですが、現状、何か話せることがあればお聞きしたいと

思います。

【市長】 現状、話せることですか。

私のほうでお願いしているのは、安全を確保しながら、いかに早く出してもらえるかということをしちんと詰めて持ってきてほしいということを言っています。

【記者】 進捗とか何か。

【市長】 進捗は、向こうで今詰めていると思います。タイムリミットもありますので、できるだけ早く持ってきてほしいということは望んでいます。私も出張へ行きますので、非常にタイトなスケジュールになろうかと思います。

【記者】 ふげんではないんですけれども、ちょっと機構関連なんですけど、年が明けてからＬＣＯがあったり、その後ヒューマンエラーもあって、ちょっと大事な時期、廃止措置計画は出していて、これから認可されて、7月にも燃料を早ければ取り出したいということも機構が言い出している中で、こういうヒューマンエラーであったり、言ってみれば単純なミスみたいなものが相次いでいることに対して、市長としてどういうふうにお感じになっているかというのをお聞きしたいです。

【市長】 廃止措置協定を結んだ後にもんじゅにも行きましたので、そういうヒューマンエラーとかをしてもらわないように、そういうことにならないようにお話をしてきたつもりなんですけど、それ以降というわけでは、それ以降に限っているわけではないんですけれども、ヒューマンエラーが起きるということは、以前に申したかもしれませんが、私はヒューマンエラーが一番嫌いなので非常に遺憾に思っています。

今回のヒューマンエラーの結果としては大した事象にはならなかったということですが、じゃ違うボタンだったら違うことになったでしょうというのが非常に懸念しています。ですから、このヒューマンエラーを起こす体質というのは非常にまずいと私は思います。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。ご質問ありましたら挙手をお願いします。

【記者】 きのう、RCNが被告になった民事訴訟の判決がありまして、RCNが完全に敗訴したんですが、市が4割ぐらい株を持っている筆頭株主ということで、市長の受けとめはございますか。

【市長】 きのう判決が出たということで、出ましたという報告は社長から受けました。詳細な中身については今後ということなんですけれども、私のほうから申しましたのは、やはり市民の皆さんが使っているRCNの視聴ですので、その使っていらっしゃる方に迷惑をかけないようにと、そういうことを大前提として対応していただきたいということは申し上げました。

【記者】 私、余り株主の仕組みとかには詳しくないんですけれども、4割株を持っているからといって、特に何か経営に口を挟めるわけではないんですよね。

【市長】 そうだと思います。

【記者】 市として、何か今回の件で指導なり指示なりできるわけではないんですよね。

【市長】 ある程度の、株主ですから発言ということはできると思いますが、それでこっちを向け、あっちを向けというのはなかなかできないと。それは経営者に任せているわけですから、そちらのほうに行くでしょうと。ただ、その株主全体として、株主総会なんか

で物を言うことはできるんだと思いますけれども。

【記者】 なるほど。わかりました。ありがとうございます。

【市長】 私も余り詳しくないです。

【記者】 はい。

【記者】 うちだけしか、今のところ報じてはいないんですけれども、敦賀市内の小学校で先生から嫌がらせを受けている児童がいるという報道があったと思うんですけれども、それについて市長はどのように対応していくべきかというところを、ちょっと市のトップとして伺いたいんですけれども。

【市長】 教育長のほうから、その内容については報告を受けています。その児童の方が本当にそういうふうに感じられたということは、非常に申し訳ないなということを思います。

ただ、もう1回事実関係を、学校が悪いとかではなくて、きちんと公正に検証をしてくれということは教育長のほうにお願いしてあります。ただ、どちらか白黒をつけてはつきりさせようというのは非常に子供さんにとってもリスクがあると思いますので、そうではなくて、何とか普通の生活に戻って卒業できたほうが私は一番いいんじゃないかなと。ですから、子供さんのことを第一に考えて、余りわーわーとならないほうが私はいいと思っています。

【記者】 検証という言葉が出てきたんですけれども、特に何か検証をするような委員会をつくとかというような考えはないですか。

【市長】 それはないんですけれども、どんなことをされているかは教育長に聞かれればまた教えてくれると思います。

【記者】 では、教育長にお伺いしますけれども、一部は報道されていますけれども、教育委員会として今後どういうふうに対応していくのかというのを教えていただけますか。

【教育長】 従前から子供さんの学校生活においての気がかりな点ということについては、校長先生を中心にそれぞれ問題の把握というんですか、気がかりな事案については未然防止、早期発見、早期対応ということでやっていただいているわけなんですけれども、今回の事案を受けまして、校長会とも連携いたしまして、とりわけ子供たちの心の問題ということでございますので、これについては、先ほど申しましたように、早期発見、早期対応というふうなことを学校としてやっていただきたいなというふうに思っております。

年度末ということでもありますので、子供さんのことについては、今まで以上になお一層、ちょっと目を配ってということをお願いしたいなと思っていますし、スクールカウンセラーの活用ということも含めましてチームで対応するということを、来週にも校長会を開催いたしまして話をしていきたいなというふうに思っております。

【記者】 今の関連で教育長にお伺いしたいんですが、確認で1点だけ。その松原小学校以外でそういった事案というのは発生していないんでしょうか。

【教育長】 それは先生が指導の中でということですか。今のところ、学校のほうからはそういうふうな報告はございません。ただ、学校のほうで対処できる部分という、校長先生が物事に対応するということになりますので、そういうことについて、今現在、各学校のほうでは一生懸命取り組んでいただいているというふうな思いはございます。

【記者】 確認ですが、ほかでは、そういった事案は。

【教育長】 今のところ聞いておりません。

【記者】 先ほど市長から雪がことしは多いというお話がありましたけれども、確かに多くて、除雪が間に合わなくて道路が本当につるつるに凍っている道とかもいっぱいあったんですが、市長は前、市役所をここの北側に移転したら、その向こう側の道がすごく凍ると懸念されていましたよね。移転することが決まっているんですが、その前の道路の対策は何かあるんですかね。凍らないように除雪を重点的にするのか、何か水をまく装置を新たにつけるのか。

【市長】 まだ今から検討すると思います。

【記者】 関連で。あの水が出る道と出ない道の違いはあるんですか。

【市長】 一応基準がありますので、部長のほうから答えます。

【記者】 何か大きい道路でも水が出ないじゃないですか。

【市長】 まず水がとれるかということがあるんですけども、地下水をとってしまうと、敦賀市は水が少ないですから地下水は余りとらないようにしようと。そうすると、そのほかに河川から引っ張ってこれるとか、そういうところがあります。あと、今度、排水ができるかどうかということも一つありますので、排水関係がきちんと整えられるか。また、あと病院とかそういう緊急時にどうしても必要な場所というのがありますので、そういうところは優先的につけていると思います。

【建設部長】 建設部です。

消雪装置のあるところでも、気温が低いと出ないというふうなことでなっています。それは装置があっても、要するに気温が低いと……。そういう話じゃないですか。

【記者】 じゃなくて、あれがついている……。

【建設部長】 設置基準ですか。

【記者】 設置基準、そう。

【建設部長】 それは今ほど市長が申し上げたとおりで、もう少し詳しいことがあれば後でお知らせします。

あと、急勾配の坂、これも当然入ります。一番重要なのは、水源があるかというところが重要なポイントかなというふうに思っています。

【記者】 わかりました。済みません。余計なことを聞いて。

【記者】 済みません、全然関係のない話かもしれませんが……。関係あるな。今、冬の国体をやっているんですけども、アイスホッケーが初出場をして、目標のベストエイトを超えて6位という結果で終わったんですけども、敦賀の選手団としてこの間、壮行会もやられていますし、サンピアでずっと練習をしているということで、敦賀の代表と言ってもいいと思うんですけども、初出場で目標以上の成果をおさめたことに関して、何か市長の所感というか、お感じになっていることはありますか。

【市長】 よかったなとは思っています。本当になかなか、スケート場がありませんので、敦賀を使って練習していただいていますので、それについてはそれで成果が出たので素直によかったなと思っています。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これをもちまして2月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後1時54分 終了